

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

http://www.kyoto-archi.co.jp/

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21

http://www.creates-k.co.jp

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741

FAX 075 (693) 6605

送料何冊でも240円

小田尚代◆著
2000円+税

定年を前に夫は倒れた。診断は「若年性アルツハイマー」。会社を退職した夫、そして家族との涙と笑い、葛藤の日々。ゆれ動く思いをつづった詩的な「書」が1冊に。



DVD BOOK

DVD
ブック

認知症の 人とともに

映像と解説でグループワークで学ぶ
—本人の思いや、認知症への理解—

- 1 地域の人びとと認知症について理解を深める教材として
- 2 診断を受けた人のために
- 3 ケアパートナーになろうと思う人のために
- 4 地域の人や職場でグループワークで理解を深めましょう

永田久美子◆監修
沖田 裕子◆編著
B5判変型上製・
総カラー
5000円+税

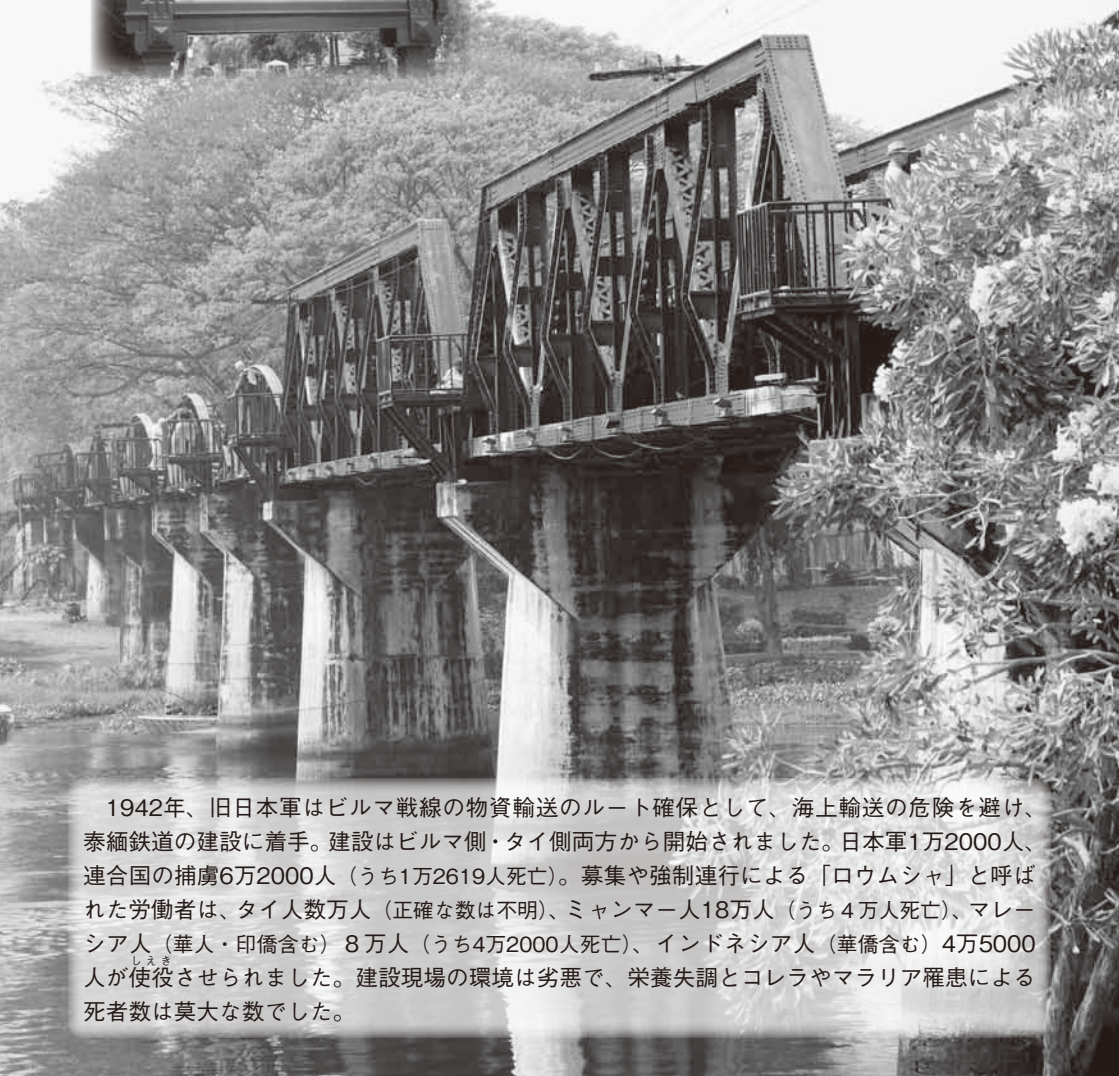


たいめん

泰緬鉄道 (過酷な建設労働で`死の鉄橋、と呼ばれた)

・クワエ川鉄橋

タイ・カンチャナブリ



1942年、旧日本軍はビルマ戦線の物資輸送のルート確保として、海上輸送の危険を避け、泰緬鉄道の建設に着手。建設はビルマ側・タイ側両方から開始されました。日本軍1万2000人、連合国の捕虜6万2000人（うち1万2619人死亡）。募集や強制連行による「ロウムシャ」と呼ばれた労働者は、タイ人数万人（正確な数は不明）、ミャンマー人18万人（うち4万人死亡）、マレーシア人（華人・印僑含む）8万人（うち4万2000人死亡）、インドネシア人（華僑含む）4万5000人（しえき）が使役させられました。建設現場の環境は劣悪で、栄養失調とコレラやマラリア罹患による死者数は莫大な数でした。

泰緬鉄道は、海上ルートが半ば途絶したビルマへの唯一の補給用ルートとして重要な鉄道でした。しかし、完成を急ぐあまりあらゆるところで規格が落とされ、強度不足が原因で転落事故も頻発しました。

映画『戦場にかける橋』に登場するクワエ川木橋は、撮影セットとしてスリランカの密林の中に実際に架橋されたもので、史実とは異なりダイヤモンド形上下トラス構造で製作されています。





「枕木一本、死者一人」。戦時中、橋の完成後は連合軍の爆撃機による空爆が行われ、橋は破壊され、復旧されることを繰り返しました。にもかかわらず、連合軍が鉄道の輸送を完全に止めさせることはできませんでした。

捕虜収容所は橋から近かったため、連合軍の爆撃で外れた爆弾が落ちてきて、多数の死者が出ました。戦後、泰緬鉄道建設になった鉄道連隊に所属する兵士や連合軍捕虜を取り扱った捕虜収容所の関係者らは、BC級戦犯として「捕虜虐待」などの戦争犯罪に問われ、処刑されています（泰緬鉄道建設捕虜虐待事件を参照、戦争博物館に資料展示あり）。

現在の鉄橋周辺は観光地となり、鉄橋を眺めながら食事をする事ができる水上レストラン、連合軍兵士墓地や爆弾を模したモニュメントなどがあります。また、観光用のトロッキ列車が鉄橋をゆっくりとしたスピードで10分程度かけて往復しています。

普段は徒歩で鉄橋を渡ることができるため、多くの観光客が対岸まで渡って散策しますが、鉄橋の幅はせまく、手すりはありません。現在はタイの国有鉄道が走っていますが、日本のように時刻が守られることはなく、遅れて当たり前。その時の過ごし方を知ることも大切です。

(写真・文 下野祇園) (2014年2月24日取材)



●特集● 井の中の蛙大海を知る（海外の福祉から学ぼう）

【鼎談】

- 海外では、ヘルパーの役割と社会的地位をどのように考えているのか
 ——世界のヘルパーにであう旅を通じて—— 藤原 るか 10
 「幸せのものさし」を北欧と日本で考える 藺部 英夫 14
 ——二十数年来、北欧の小さな町の障害者のくらしを訪ねて——
 寛容政策が罪を犯してしまった人の社会復帰を手厚く支援する国
 石倉 康次 19
 【討論】 藤原・藺部・石倉 23

●サブ特集● 社会福祉と国家を考える

- 【対談】 伊藤文人・浜岡政好 28

●トピックス●

- 600人規模の認定こども園をほんとうにつくるの？
 申 佳弥 36
 熊本地震◆被災施設への緊急支援に参加して
 ——二つの震災支援から見た防災対策—— 中村 公三 40
 障害のある人の所得保障と、家族依存からの脱却が急務
 ——きょうされん「障害のある人の地域生活実態調査」 44
 週2回（火・土）、デイサービスに通う小川政亮さん 47
 福祉の原点をわすれないでください
 早川一光さん（92歳）が立命館大学で講演 48
 かけがえのない一票で、憲法25条を守る政治を実現させよう！
 ——分野・領域を超えた多くの方々が集結—— 50
 第22回社会福祉研究交流集会 in 京都 52

●連載●

- フォーラム 運動の広がりこそ、情熱を切り拓くちから 福井 典子 56
 施設から子どもたちの未来をきりひろく
 子どもの居場所をゆたかに 吉岡美佐穂 58
 相談室の窓から 中年のひきこもり問題を考えたい(1) 青木 道忠 62
 育つ風景 「保育士にならない決意?」 清水 玲子 64
 「助けて!」って言ってもええねんで!
 なんとか一緒に生きのびよう! 徳丸ゆき子 66
 全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ 千田勝夫・絹枝 68
 移動の自由をもとめて(4) ——駅ホームは欄干のない橋・その2
 映画案内 『海街Diary』 吉村 英夫 70
 現代の貧困を訪ねて 生田 武志 72
 「世襲資本主義国」日本は、「世襲格差社会」になった
 似らずとれーしょん道場 似顔絵まんがアート
 「デフォルメ」するのじゃ!! ラッキー植松 74
 ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76
 花咲け! 男やもめ 川口モトコ 77

みんなのポスト 54 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

- グラビア● 泰緬鉄道（過酷な建設労働で“死の鉄橋、と呼ばれた”・
 クワエ川鉄橋 ～タイ・カンチャナブリ～

●表紙の絵●
 神門やす子



沖縄県に平和と安全が訪れる日はいつか？

いとう
伊藤わらびさん
沖縄大学地域研究所特別研究員

東北に住むA子さんからの便りには、「いつも沖縄のことを思ってくださいありがとうございます」と記されています。宮古島の高校を卒業後、日本本土に渡って半世紀、いまでも郷里沖縄への変わらぬ熱い思いを知らされます。

二、三回の観光以外の沖縄県との出会いは、日本一の出生率が報じられた多良間村を、二〇〇五年三月に訪れたことでした。八年後の二〇一三年四月から一年間島に居住し、島の子育て環境、守姉かりアジの慣習や、保育所の設置運動、伝統的な八月踊り（豊年祭）の子どもたちへの継承等について、調査研究を行いました。五〇〇年間の歴史を有する多良間島は、独特の風習、祭事、民俗芸能などが原型のまま保存されており、民俗学の宝庫と言われています。（※守姉…：少女が村の乳幼児の子守りをする多良間村の風習）

人口一二〇〇人の島の産業は、県の四〇％の生産高を占める黒糖と黒牛の飼育です。島民は友好的で、日中の猛暑のなかでの農作業を終え、海から涼しい風が吹くころ、村のセンターに集まり、歌・三線や琉球舞踊を楽しんでいました。その情景はいかにもどかで、竜宮城での浦島太郎の物語を思い起こしたものでした。

一年がたつたとき、那覇市に居住しました。市内の沖縄大学で一年半、沖縄学を中心とした聴講をはじめ、観劇、講演会、各地の伝統行事等に参加したことで、沖縄県の歴史、文化、現代社会について認識を深めることができました。

小国ながら非武の文化・教養を奨励し、アジア諸国と友好的に交易を行い、約五〇〇年間繁



いとう わらび

沖縄大学地域研究所特別研究員。十文字学園女子大学名誉教授。「沖縄を語るデイゴの会」主宰。専門分野は社会福祉、とくに児童福祉。

1943年旧満州生まれ。1960年代に、東京および英国の児童養護施設に勤務。1970年代より短大、大学で保育者と社会福祉士の養成教育に従事。

趣味は、沖縄県の組踊、琉球舞踊の鑑賞。沖縄2紙『琉球新報』『沖縄タイムス』の講読。韓流ドラマ、とくに歴史物の視聴。

栄した琉球王国は、一八七九年、明治政府による強行な琉球処分で滅亡しました。以後、日本への強力な同化政策、戦争における忠誠心と協力の強要、そして第二次世界大戦敗戦後の米軍の占領と軍政の下での苦難、一九七二年の本土復帰後も日本の平和憲法下での生活の期待は裏切られ、戦後七〇年がたった今日も、全国土面積の〇・六％の土地に七四％の米軍基地を抱えるという異常事態が続いています。

沖縄戦は日本本土への米軍の上陸をくい止めるための捨石作戦すそいしであり、県民を巻き込み、四人に一人が犠牲となった世界でも類をみない悲惨な地上戦でした。終戦と同時に県民が二〜三年間、北部の収容所に入れられているあいだに、米軍は接収した土地に欲しいままに基地を建設しました。現在も土中から遺体や不発弾が出土し、沖縄戦体験者の高齢者の多くがPTSD（心的外傷後ストレス障害）に悩まされています。すでに実証されているように、基地の存在が沖縄県の経済的発展を阻んでおり、いっぽう、二七年間の米軍の統治は社会福祉、社会保障制度の整備の遅れをまねき、貧困問題をはじめ多様な県民の生活問題の要因となっています。

日本政府の強権による辺野古新基地建設への反対闘争が長く続いています。戦争の悲惨さを知る沖縄の人々は、子どもや孫世代のために平和で安全な沖縄を願い、強大な権力に向き合い、必死でたたかっています。本土に住む日本人はデマや誹謗中傷に惑わされずに、沖縄県の実情を理解し、歴史に翻弄されてきた沖縄県民の切実な願いを知ってほしいと思います。



特集

海外の福祉から学ぼう

「井の中の蛙、大海を知る」

井の中に大海の存在すら知らさず、ましてや、井の中のこともまともに知らさず、井の中が歩んだ歴史さえも偽造する。歩んだ歴史の中で生まれ

た世界に誇るべき井の中憲法とはかけ離れた井の中にしようと、統治者は躍りになっていく。大海のさまざまな権利条約を、留保や一部除外にして締結する姑息な井の中統治を企てる。井の中情報を操るマスメディアさえも、真実より、為政者に顔を向ける。何が真実で、何が現実か。表面は波立たないようでも、水面下は荒れている。浮かび続けるのも容易たやすくない。

そこで、蛙たちは考える。本当の井の中のことを、そして、井の中の外には、大海があることを。そのキーワードは、能動的情報獲得。しかし、井の中の蛙に自己責任があるのだろうか？ 意図的に、外界とつなげずに、ましてや井の中情報を操る井の中の生活に、蛙たちの自己責任は存在するのだろうか？

「痩せ蛙 負けるな一茶おせまちここにあり」という句がある。句の内容は略すが、信州の小布施町の岩松院にもこの句の縁が書き残されている。蛙合戦には、いくつかの伝承もあるので、場所の正確さはお許し願いたい。岩松院に少



し雪の残る時期に伺ったのを思い出す。憲法は、国民の位置と、その位置を保障することに統治が存在することを説く。「私が立法院の長です」というようなものでは決してない。

ここで押さえないなければならないことは、井の中の蛙の権利の自覚とそのための育みや情報提供である。統治者は、そのことに心砕かねばならない。

さて、今回の特集では、大海から井の中を見てみようという試みだが、ここは、ただ単に大海から見るといこうとだけでなく、そこからまた、井の中の真実も浮き彫りにならないかとのねらいもある。

最近おどろいたことに、国の財政審議会や規制改革委員会などで、「憲法の社会保障の『国家責任、最低生活保障、無差別平等の原則』は、アメリカが持ち込んだ考えで、日本独自の考えではない。日本が独自に、社会保障の考えを打ち出すときが来ている」という動きだ。主権在民を否定し、さまざまな主権者としての国民の位置を実態と国家の枠組みから崩そうとしている。ましてや、昨年来の違憲の安保法制も根を一にする。

そういえば、元内閣法制長官の阪田雅裕さかたまさひろさんは、「集団的自衛権を行使するということは、その敵となる国に、我が国を武力攻撃する大義名分を与えることになり、かえって国民を危険にさらす。抑止力は、アメリカによりつつその協力をしないと、いざというときに米軍が日本を守ってくれない、日米軍事同盟以上のことが発生する根拠が説明されていない。安保法制に基づいて行われる自衛隊の海外派兵が法律に適しているかどうか、我が国に必要なことなのかどうかを監視していかなければなりません。安保法制は、自衛隊の海外活動を義務付けているわけではなく、これから行うことができるというものです」（全国革新懇新聞）と発言している。

今回の、七月号特集の海外からみた社会福祉、国家責任問題は、そのようなねらいから企画した。（編集主幹）